

# 東京 陵 水

暑 中 御 見 舞  
陵水会東京支部役員一同

## 平成十九年度東京支部総会

### 支部長に西坂徹雄氏（大9）就任

支部組織の充実、母校支援体制の強化を課題に発足

平成十九年五月十六日（水） 兼事務局長（大12）から報告。午後六時から、港区台場一丁目、ホテル日航東京「アポロンの間」が行い、全出席者の確認と承認を得た。続いて平成十九年度事業計画及び収支予算計画について同副幹事長から提案、承認された。今回の開催、運営には大学十九回卒業生が当番幹事として当った。

司会を守谷貞夫幹事長（大12）が担当。宇治原嘉政支部長（大7）から来賓の滋賀大学経済学部長福田敏浩教授、陵水会理事部長堀川馨氏、陵水会名古屋支部長小島孝一氏、北海道東海大学川崎一彦教授の方々を紹介、続いて支部長挨拶の後、議長に箸方海三氏（大4）を選び議事に進んだ。

平成十八年度事業報告並びに収支決算が、田村寿夫副幹事長

支部長 西坂 徹雄  
（現副支部長・大9）  
副支部長 守 谷 貞 夫  
（現幹事長・大12）  
幹事長 加 藤 博 善  
（新任・大14）

（2ページ上段へ続く）

| 目次 |              |
|----|--------------|
| 1  | 面 平成十九年度支部総会 |
| 3  | 面 来賓挨拶       |
| 4  | 面 総会特別講演要旨   |
| 7  | 面 改定後の支部規則   |
| 8  | 面 「こんにちば」    |
| 12 | 面 随筆         |

|    |               |
|----|---------------|
| 13 | 面 ゴルフ談義       |
| 14 | 面 同期会だより      |
| 15 | 面 彦根コンフィデンシャル |
| 17 | 面 支部年会費納入者    |
| 18 | 面 広告          |

は会員に直接語りかけ、一方年次幹事を通じ会員の一層の組織化を図るつもりです。今後は年次幹事の皆様には種々御世話になるとは思います。陵水会の拡大と発展のためよろしく願います。

今度宇治原嘉政氏より、陵水会東京支部の支部長を引き継ぐことになりました西坂徹雄です。私は陵水会での活動経験が乏しく会員の皆様にも馴染みが薄いと存じますが、ベテランの副支部長守谷貞夫氏と新幹事長の加藤博善氏、更に役員幹事諸氏の協力を頂き、歴史ある東京陵水会の一層の発展のため、全力を尽くす所存です。

まず第一は陵水会員の皆様から親しまれ期待される東京陵水会を目指します。参加者が五十人の大台に乗らんとする「ゴルフ会」、総発行部数が二千部を超える会報「東京陵水」、そして多数の常連会員を持つ「囲碁会」の三つの活動は先輩達のご尽力の賜物であります。今後も会員が集い楽しめる新しい企画を実現したいと考えていますので、提案をお待ちしています。

## 「新支部長として」

陵水会東京支部長 西坂 徹雄（大9回）

第二は陵水会東京支部最大のイベントの年次総会です。本年は五月十六日に大学十九回卒業生が幹事をされホテル日航東京での盛大な総会でした。同窓の川崎一彦教授の、高齢化社会での生き方など興味ある講演と共に、会員間の親睦の場として大変盛り上がりました。来年は大学二十回卒業生に頑張っていたいただき、より多くの会員が参加され、より盛大な会になるよう幹事役員も努力します。



京支部の役員・幹事は今後ともこの募金の成功の為に、企業募金のための関係企業への訪問も含め努力しますので、本募金について皆様のご賛同とご協力を心からお願い申し上げます。

第三番目の目標としては、東京陵水会でも最大人数の団塊世代の皆様が積極的な陵水会活動への参加です。これが為、大原孝明氏（大38）に尽力頂いている「東京陵水インターネットホームページ」の充実と年次幹事会の定期開催を実現します。インターネットで

副幹事長 山本保(留任・大15)、  
木津勝治(新任・大16)、柴  
原良昭(新任・大17)、中村  
嘉秀(新任・大18)、

監事 高木早苗(留任・本

24)、星出潔(留任・大13)

評議員(再任) 楠田迪彦(本

24)、川本茂(大1)、箸方海

三(大4)、鈴木重成(大7)、

吉原悟一(大9)、西坂徹雄

(大9) 宮野幸雄(大12)、守

谷貞夫(大12)、藤本幸延

(大15)、山本保(大15)、柴

原良昭(大17)

評議員(新任) 高木早苗(本

24)、松浦幸作(大8)、加藤

博善(大14)、木津勝治(大

16)、中村嘉秀(大18)

続いて、来賓挨拶を滋賀大学  
経済学部長福田敏浩教授、陵水  
会理事長堀川馨氏からいただく。

講演会は、講師の紹介を当番

幹事十九回卒の竹森二郎氏が行  
い直ちに講演に入った。プロジ  
エクター画面に講演内容の項目  
が映され、これをつなげながら  
川崎教授の静かな講演が進行し  
た。元気な高齢者を作るシステ  
ムづくりを、主要な研究テーマ  
とされているとのことであった。  
講演の後、質疑応答を二、三  
受け付けた。

会場整備のため五分ほど時間  
を置き、午後八時過ぎから懇親  
会が、門平孝二郎当番幹事の司  
会により開会された。

乾杯の発声を、小島名古屋支

部長にお願いした。「仕事をす

るのだったら好きな仕事をしな

さいと自分のスタッフに日頃か

ら言っている。大卒の就職後の



定着率は三年以内で三十六パー  
セント、高卒は五〇・一パーセ  
ント、長命少子の時代に向かっ  
て考えなければならない課題で  
ある。女子大ではないかと思う  
ほど母校の女子学生が増えた。  
ところが今日は女性の姿が見え  
ない、現役の皆さんが自分のと  
ころに女性がいたら連れてくる  
努力をしてください。名古屋支

部は総会出席者二百名のうち五  
名くらいが女性、今年は二ヶタ  
にしようと声をかけている。陵  
水会の一層の発展と、出席者の  
長寿の生き方を祈って乾杯。」

開会間もなく高商校歌をBGM

に、正面壇上で西坂新支部長

から新役員が挨拶を始める。

暫く懇談の賑わいが続いたあ

と、アトラクションの三井住友

海上管弦楽団員のピアノ、バイ

オリン、オーボエの三名の方に

よるミニコンサートが開かれた。

日本歌謡をはじめ馴染み深い名

曲の数々を演奏、聴衆を快い雰

囲気に誘い好評を博した。

約三十分のコンサートのあと、

今年度新入会員で出席者の男女

一名づつが挨拶をした。本会年

次幹事の大学十九回卒二十二名

が壇上に上がり、自己紹介。出

席者から労いの拍手を浴びた。

次期当番幹事に当る大学二十

回卒の三名から、来年総会開催

に向けての決意と協力の要請を

込めた挨拶があった。

終了予定時間の午後九時も大

幅に過ぎたところ、高商校歌の大

合唱が起こった。最後に川本茂

氏(大1)の音頭により中締め

の全員の拍手がびたりと一致し

たところで午後九時半、盛会裡

に十九年度総会は終了した。

#### 宇治原嘉政支部長挨拶

今年は役員改選期となる。支

部の規則により任期二期四年で

現支部長、幹事長が退任するの

で、手元の資料のとおり新しい

役員候補が推薦されているので

後ほど検討してほしい。執行部

のスムーズな移行が行われるよ

う万全の態勢をとりたい。評議

員は長い間人事が停滞していた

が、前回の総会から役員は自動

的に評議員になり、役員の交代

に合わせて交代することになり、

評議員の一部入れ替えを行う。

学生交流プロジェクトとして

去年からリーダーシップ論を大

学でスタートさせ、学生に一単

位を付与すことで行っている。

今年の秋は、東京支部から講師

として増永保夫(大12) 東洋信

託銀行会長、田川行雄(大9)

トッパンNECサーキットソリ

ューションズ社長、藤本幸延

(大15) 富士貿易社長の方々に

お願いすることにした。この講

座は学生にも人気があり、これ

からも発展させたい。今後也会

員の参加に協力してほしい。

この度大学が大学教育研究支

援基金をスタートさせた。大学

が法人化され、国立大学が教育

と研究に専念する体制に加えて、

になった。文科省は国立大学経  
営の一環として各国立大学に交  
付している運営交付金を毎年一  
パーセント減らしている。滋賀  
大学は文科省から毎年三十億円  
の運営交付金を得ているが、毎  
年三千万円づつ減額されてきて  
いる。大学当局は赤字を出すこ  
となく減額に対処されているが、  
少子化時代を控え大学全入時代  
を迎え、大学は多くの受験生を  
取り込み、優秀な学生を取り込  
んでゆくということで、魅力あ  
る大学づくりが喫緊の課題にな  
っている。大学は学生にキャン  
パスアメニティを向上させると  
か、あるいは滋賀大経済学部が  
目標としているグローバルスベ  
ンチャー教育の育成のためのプロ  
ジェクト教育の充実であるとか、そ  
ういうことに大変な資金が必要  
である。大学としては学内から  
資金を仰ぐべく、大学教育研究  
支援基金を立ち上げることにな  
った。アメリカの大学に見られ  
るように大学が財団として膨ら  
み、それが大きく大学の運営を  
資金的にサポートするというこ  
とが望ましいのだが、支援基金  
は立ち上げ時点においては非常  
に厳しい環境にあるので、一応  
この二年間に一億円を集めるこ  
とにした。経済学部が七千万円、

教育学部が三千万円でスタートする。陵水会の方でなんとか検討したけれど、今まで我々がやっていた周年事業の資金集めとは違い、法人に頼るわけにはゆかないだろう。いままでの記念事業は法人に頼ってきた。それは無理だということで、陵水会員を中心に立ち上げることにした。一口五千万で二口一千万以上の募金運動を二年間にわたって開始するのでご理解の上ご協力願いたい。大学の基金だから大学の先生方もゼミの卒業生に向かって呼びかけていただき、大学、卒業生一体となって目標をクリアしたい。

この総会は十九回卒業生が何度か集まって会場の選定、段取りを取って頂いた。それぞれ多忙な中を務めていただき立派な総会が開けたことにお礼申し上げます。

今回で支部長を任期二期四年で退任させていただくことになった。四年間いろいろとご協力いただいたことに対し厚くお礼申し上げます。

### 来賓挨拶

○福田敏浩経済学部長

(要旨)

三点ばかりお耳に入りたいこ

とがごいます。第一点目は好調な就職ということ。今年の三月におよそ五百四十名の卒業生が巣立ちました。九三・一％です。民間企業への就職、公務員、進学等全てを含んでおります。企業への就職だけをとって見ますと九五・一％です。全国的にもトップクラスだったろうと思っております。

二番目は好調な入試です。わが経済学部は全国の国立大学の中で最大の規模を誇っております。昼間の入学定員が五〇〇名、夜間の入学定員が五〇名、都合五五〇名です。昼間生で申しますと、志願者総数が三、一二二名で志願者倍率は六・六倍です。全国の国立大学の経済学部の中では五本の指に入っております。

このうち入学を許可したのが五三七名です。夜間は定員五〇名、志願者が一〇二名、その内五二名の入学許可者を出しました。なお、女子学生は一九一名で三二・四％を占めます。都道府県別の入学者を見ますと第一位は愛知県で九九名、一八・八％。第二位は滋賀県の九八名、一八・一％。第三位は京都府六九名、一三・一％。大阪府四三名、岐阜県四二名が続きます。

第三番目は大学院経済学研究

科には修士課程の定員が五二名、博士課程が六名いることです。今年三月には、五名に博士号を授与することができました。日本人が四名、中国人が一名です。日本人四名は何れも現役の社会人で、一人は京都で税理事務所をされている有田さんという五十台前半の陵水のメンバーです。博士号を授与した陵水会員の第一号です。お二人目は滋賀銀行、三番目の方は大阪証券取引所にお勤めです。四番目の方



は韓国のIT関連企業の部長で、世界を相手に仕事をされておられます。有田さん以外の方は何れも四十歳半ばの方です。グローバルに商売しようと思いつくと、博士号がいるようになってきたということです。

最後に滋賀大学教育研究支援基金への募金のお願いでございます。このたび大学は法人化と共にまさに競争の渦中にあり、生き残り戦略で、滋賀大学のブランドを高めるべく、他大学と

の差別化として「リスク」「環境」「東アジア」を三つの柱として戦略を展開しております。そこへ重点的に人・物・金を投入しまして、グローバルスペシヤリストの養成をしてまいります。現実には国の行政改革、財政改革のありを受け経済的にはシビアな状況にあります。滋賀大学の収入予算は五十六億円です。内八〇・五％が人件費です。国からの運営費交付金が約三十三億円で、五九％。残りの四一％の二十三億円が自前です。殆んどが学生からの納付金の授

○陵水会理事長堀川馨氏

(要旨)

業料、入学金です。国の財政改革により平成十六年から平成二十二年度末まで毎年一％づつ運営費交付金を削減されていきます。一年間約三千万円減ってまいります。平成十八年度から定年退職者後任ポスト不補充を行う中で、学生の教育と教員の研究をしっかりとやって滋賀大学を発展させなければなりません。そうなりますと、やはり先立つものは資金です。誠に心苦しい限りでございますが、大学の発展のために何卒ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

くの方に講師をお願いしている。理事長として全国の陵水会の支部をできるだけ訪問しようと思掛けてきた。今年二月には福岡支部を訪問、これで全支部を訪問したのではないかと思う。昨年は札幌支部総会に伺った。自分の仕事上の得意先を回っているに訪問するようにしており、経費の面では陵水会に迷惑をかけていないつもりだ。回って見て感じることは滋賀大学経済学部の伝統の重みである。そして他の学校は陵水会の活躍に比べると全く低調であるあることを知った。陵水会は大いに自信を持っていいのではないか。昨年

の週刊ダイヤモンド誌には「出世する大学ベストテン」の九位にえらばれていた。

## 平成十八年度収支報告

(単位円)

### ○財産目録

陵水会のような同窓会とのつながりから、OBが直接大学の授業を担当しているのは全国に他にはないのではないか。また今回陵水会員の一人である松下電器顧問の戸田一雄氏(大12)が滋賀大学客員教授に選ばれた。松下電器で素晴らしい業績を生み出すのに一翼を担った方が、教授として若い学生たちを指導していけるということである。

### 現金

五四、五三三

### 普通預金

二一五、四三四

### 郵便貯金

一、四七七、七二〇

### 定期預金

一、〇六〇、〇〇〇

### 電話加入権

七四、九八四

### 合計

二、八八二、五七三

### ○貸借対照表

### 現金・預金

一、七四七、五八九

### 基本金引当預金

一、〇六〇、〇〇〇

### 電話加入権

七四、九八四

### 合計

二、八八二、五七三

### 【貸方】

### 基本金

一、〇六〇、〇〇〇

### 次年度繰越金

一、八二二、五七三

### 合計

二、八八二、五七三

### ○収支計算書

### 【支出の部】

### 計

四、八九一、五八一

### 総会費

一、〇六四、〇七八

### 運営費

三八四、四九一

### 印刷費

五四四、九四五

### 通信費

六八〇、五一〇

### その他

三九、四九八

### 次年度繰越金

一、八二二、五七三

### 【収入の部】

### 計

四、八九一、五八一

年会費収入 一、三二九、〇〇〇  
総会負担金収入 六九六、〇〇〇  
臨時会費負担金収入(役員会)

二七〇、〇〇〇

### 本部活動助成金収入

一三四、一〇〇

### その他

一五六、五七二

### 前年度繰越金

二、三〇五、九〇九

## 平成十九年度収支予算書

### 【支出の部】

### 計

四、六〇六、〇七三

### 総会費

九五〇、〇〇〇

### 運営費

三八〇、〇〇〇

### 印刷費

五五〇、〇〇〇

### 通信費

六五〇、〇〇〇

### その他

四九五、〇〇〇

### 次年度繰越金

一、五八一、〇七三

### 【収入の部】

### 計

四、六〇六、〇七三

### 年会費収入

一、五〇〇、〇〇〇

### 総会負担金収入

七〇〇、〇〇〇

### 臨時会費負担金収入(役員会)

三〇〇、〇〇〇

### 本部活動助成金収入

一二三、三〇〇

### その他

一六〇、二〇〇

### 前年度繰越金

一、八二二、五七三

## 新入会員所感

松本 孝之(大55)

まずは、盛大な会にご招待預かりましたこと、そして、先輩諸氏が快く挨拶させてくださいましたこと、温かい言葉をかけていただきましたことに感謝いたします。そして、お名刺を頂戴いたしました先輩方にご挨拶が遅れましたこと、この場を借りてお詫びいたします。

さて、現在の仕事ですが、ジャフコという会社で第二投資本部に配属されました。

ジャフコは野村證券系のベンチャーキャピタルでして、成長が著しいベンチャー企業に投資を行い、上場まであらゆるサポートを行う会社です。そもそも

弊社は滋賀大出身者が少なく、滋賀大出身者は私を含め二名です。社員数は三百名ほどの会社であり、平均年齢が比較的若い会社です。私の主な業務内容としては、投資先の発掘活動です。設立間もないＩＴ系の会社から、設立して時期は経っているが、優れた技術やサービスを提供している会社まで、全業種、全ステージに対してアプローチを行っています。

最近、社会にでて、やっと同行という枠も外れて、一人です。また、先輩諸氏とのネットワークを持つ場であるということ、これが最大の魅力でした。御招き頂いた先輩方、特に守谷輸送機工業株式会社の田村様には、大変感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。

当日は仕事の関係で、終了間際に会に飛び込んでしまい、ご迷惑をお掛けしました。短い時間でしたが、先輩諸氏が温かく迎えてくださり、感激しました。短い時間でしたが陵水会の活気のある空気が非常に伝わりました。上京しても多くの先輩方がいらつしやることは、仕事において、また私生活においても大変励みになります。そのことを実感できたことが、今回参加して良かったことの一つであります。

また、先輩諸氏とのネットワークを持つ場であるということ、これが最大の魅力でした。御招き頂いた先輩方、特に守谷輸送機工業株式会社の田村様には、大変感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。



支部総会アトラクション

## 平成十九年度

### 陵水会評議員会 総会開催

六月二日（土）、平成十九年度陵水会評議員会総会が彦根の母校において開催された。

平成十八年度事業報告、同決算報告、平成十九年度事業計画、同予算案の審議が活発な質疑応答の中で行われ、原案通り可決された。

すでに全会員あてに送付されている「滋賀大学教育研究支援基金」への、陵水会としての協力についても理事長から説明が行われ、既に幸先よく一千万円にのぼる応募実績を得た旨、報告があった。

大学側からの現況報告のなかでは、好調な平成十八年度卒業生の就職状況（九十三・一％）と、同十九年度入試状況志願者数の前年比増加が示された。

大学を卒業してから、野村證券にお世話になっておりましたが、しばらくして辞め、スウェーデン人と結婚し、スウェーデンのストックホルムに住んでいました。当時、日本貿易振興会（JETRO）の現地の職員として雇っていただきました。その頃のJETROというのはかなり自由で、潤沢な研究予算があつて、テーマは自分である程度決め、成果だけを出してくればよい、百年先の日本の役にたつことであれば、何でも研究しろという贅沢な環境でした。

たまたま、一九八八年に、北海道東海大学へ来ないかという話がありました。私は滋賀県生れですが、滋賀県の暑さにはもう耐えられない、いろんな冠婚葬祭とか人付き合いにしても合わず、もともと日本に戻るつもりはなかったんです。しかし、札幌に来てみますと、札幌は日本ではないことが分りました。開拓精神が今でも残っていると思ふんですね。つまり、札幌は日本にかわりはないけれど、札幌には住めるということであらう。九八年以来、札幌に住んでおります。ただ、スウェーデン人の妻と、二人の子供は現在、ストックホルムで仕事をしておりま

す。そんな関係で、年に数回行ったり来たり生活です。スウェーデンの大学の殆んど、九・九％が国立大学で、授業料は一切無料です。授業料が無料どころか奨学金、奨学ローンが国が提供してくれます。二人の子供は一切親の脛かじりをせず

に経済学部を卒業しました。スウェーデンのヨーテボリ大学のオーク教授は、日本人はアジアのスウェーデン人、スウェーデン人は北欧の日本人といえるほど国民性が似ているという

一番参考になる、スウェーデンを始めとする北欧の状況は、福祉大国であると同時に経済大国、福祉と経済を両立させている点だと思います。つまり経済の競争力が高い国でもあり、福祉がむしろ経済と相互補完関係にあるという考え方ができるんじゃないかと思っております。

スウェーデンのヨーテボリ大

学からは知業時代

学は欧米と比べて大分遅れているという実感を持ちます。私がストックホルムにおりました一九八〇年代、バブル崩壊の

### 特別講演

## 「長命から長寿へ」（要約）

北海道東海大学教授 川崎 一彦氏（大18）

研究結果を発表しております。アメリカ人のようにずうずうしくない、社会的に控えめだと。お酒が触媒、つまりノミニケーション、アフターファイブが大切で、そういうときにホンを話すとか、あるいは対立を回避する、和を大切にするということです。

前、ジャパンアズナンバーワンといつて日本は浮かれていたんですが、工業、つまりものづくりの時代であったと思います。我々の浮かっている間に、北欧あるいは欧米の先進国は知業即ち知識産業の時代に突入していったと思うわけです。

現在、私は起業家精神教育、あるいは知的財産教育という分野に力を入れています。スウェーデンと比較してお話をしてきたいのですが、日本にとって

三年程前に村上龍さんの書かれた「十三歳のハローワーク」という本で、中身は三十九種の「好き」から探せる五百十四の働き方について書いています。例えば動物が好きならこういう

働き方がある、あるいは食べ物が好きならこういう働き方がある、つまりキャリア教育ですね。何にも好きなことがない、私の好きなのは寝ることだけという子供さんには、こういう働き方があるということまで書いています。我々現役世代は、好きで好きでしようがないことは職業としては出来ないという前提で考えていたかもしれません。アメリカのマズローという心理学者が欲求段階説を唱えていますが、少なくとも私の学生などを見ていると、殆んどが自己実現の欲求に達しているのではないかと思ひます。二十数年前、オランダのホーフステッドという民俗学者が、日本での社会の支配的な価値はお金とか物、権力、野心であつて、男性的社会であると定義し、世界で最も男性的な社会は日本とアメリカであるという結論を出しています。それに対して北欧諸国は支配的な価値が生活の質、共生、共感、調和であつて、最も女性的な社会であるといふんです。最近の若者を見ていると、男性的な社会の価値観から女性的な社会の価値観に移っています。我々の世代も、ひょっとするとそうではないかという感覚を持ってい

ます。

アメリカのビルゲイツはウィンドウズで世界一流企業になりましたが、同じパソコンの基本ソフトにリナックスというのがあります。これを開発したのがフィンランド人のリナス・トルバルズですが、彼はこれをネット上オープンにしていまして、なので、全然お金持ちにはならなかったわけです。しかし何のためにオープンにしまったのか「それがぼくには楽しかったから」——Just for fun——です。お金ではなしに楽しいことが価値であったということがこの人の価値観ですね。

学研が毎年「なるほどデータ」というのを出していますが、小学校六年生に聞いたら「欲しい物が多くてお金が足りないというのは当たっていますか」という質問に女子は五八%が当たっていない、男子についても差はそれほど大きくはないですが当たっていないという人が多い。我々の子供、あるいは孫の世代になるかもしれないですが、お金ではないものを追求しているんですね。昨年、トフラーが著作で「無償の経済活動が貨幣経済を脅かす」という話を展開しています。

これまでは会社とか団体とか組

織でないと富は生れないと思ってたんですが、「新たな富は個人から生れる」と言っています。一年が二百年

最近、情報爆発という言葉がよく使われます。アメリカの元HPの女性CEOフィオリナは「今後三年間の情報量は現在までの人類の歴史における全てのデータ量を上回る」と言っています。アメリカのレイ・クルツベイルという未来学者は著作で「二十一世紀の技術革新は二万年分に相当する」ということを書いています。嘗てドッグイヤーという表現がありました、ITの時代、犬の寿命は人間の七分の一くらい、つまり人間の七倍ぐらいのスピードで技術革新が進んでいるという議論であったわけですが、そんな程度ではないんですね。彼によれば二十一世紀の技術革新は二十世紀の二万年分に相当する、ということ。単純に二万年を百年で割ると一年が二百年になるわけ。皆さん、今年一年間で、二百年分の技術革新、新しい情報があるということです。それだけのすごい可能性があるわけですね。

スウェーデンにはスウェーデンモデルといわれる政策モデル

がございます。その仕組みは競争力のある産業を育成することによって、完全雇用と高い水準の所得を保障する、それによって個人から法人からでなくて——これが大切なんです、高い税負担を可能にする仕組みを作るといことです。個人の支払う税金には基本的には二種類あり、直接税である住民税、もう



本の高齢者の比率はスウェーデンを抜きまして、現在は世界最高の水準で、どんどんその比率を引き離している状況です。そういう意味ではスウェーデンが逆に日本からいろいろヒントを得たり、日本のやり方に注目している状態です。

#### 六十五歳は元気元気

何れにしても日本が最も高齢社会であることは間違いないことです。ただ、六十五歳が今でも高齢者の基準になっているんですが、これを国連が決めたのはもう三十年以上前なんです。私は昭和二十二年生れですが、昭和二十二年当時と現在の平均寿命を比較をしてみますと、三十歳くらい伸びてますね。

しかし還暦は今でも六十歳、喜寿は七十七歳……。いつ頃から言ってるのか知りませんが、少なくとも江戸時代より昔からでしょうね。平均寿命がこれだけ伸びても還暦が六十歳はおかしいのではないかと。

最近、スウェーデンではライフコースということがよく議論されます。個人が一生の間にたどる社会的な道筋、社会構造内での個人の変化する立場の軌跡ということですが、これがスウェーデンでも非常に多様化して

いる。これまでは学校で勉強したら卒業して就職し、結婚をし子育てし、退職し年金生活に入るといいう年令による階段という表現もありましたですね。しかしこういうパターンが最近では当らなくなってきた。八十歳でも勉強しています。先程の学部長の話にもありましたが博士号をとりたいたいという我々の世代が多いわけです。その背景には六十五歳というのは高齢者に入らない、実際、六十五歳以上の方を対象にした調査を見ますと、六十五歳人口の半数はどこも体の悪いところがないということが、日本でもスウェーデンでも半数なんです。

中国では長命と長寿を使い分けをする、長命は物理的に長生きをしているだけ、長寿とは死ぬまで生き甲斐をもつて澁刺と生きている人をいうそうです。日本はすでに世界でも最長の長命国でもあるわけですが、これから目指すべきは世界でも最大の長寿国であるというのが日本の課題でもありチャレンジでもあります。特に陵水会の皆様には長命から長寿へのお手本になつていただきたいと期待をしています。ご静聴有り難うございました。

# 「旧制彦根高等商業学校と いうファイル」(岩波書店 「図書」掲載記事)について

滋賀大学経済学部准教授阿部  
安成氏の執筆記事「旧制彦根高  
等商業学校というファイル」  
が、図書情報誌として全国的に  
著名な岩波書店発行「図書」五  
月号に掲載された。

彦根高商が収集してきた東ア  
ジア旧植民地関係資料を歴史化  
する作業を進めてゆく中で、こ  
れらの資料を、そのよって来る  
来歴から切り離して研究資料と  
してだけ見るのではない、彦  
根高商が集めた資料なのだから  
彦根高商という学知を考えるテ  
キストとして活用することだ、  
残されている資料群を丸ごと考  
えて資料の歴史化を進めたい、  
ここ(滋賀大学)でしか出来な  
い経験をふまえて彦根高商とい



う(学知  
の)歴史  
を書きた  
いと結ん  
でいる。  
阿部准  
教授の専  
攻は近代  
社会日本  
史。

## 東京支部規則、 改定後の全文

陵水会東京支部規則は平成十  
七年度において、全面的、大幅  
な改定を行ったが、改定箇所を  
部分的に当会報で支部会員に通  
知してただけで、改定後の全  
文の徹底に欠くところがあった。  
そのため運用にあたって不十  
分な措置が行われることのない  
よう、ここに改めて支部規則全  
文を掲載する。

### 陵水会東京支部規則

#### (第一章 総則)

**第一条 (名称)** 当支部は、陵水  
会東京支部と称する

**第二条 (目的)** 当支部は、会員  
相互の親睦向上をはかり、あ  
わせて母校の発展に貢献する  
ことを目的とする。

**第三条 (会員)** 当支部は、東京  
都およびその周辺に在住また  
は在勤する陵水会会員をもつ  
て組織する。

**第四条 (会員の義務)** 会員は次  
の各項について支部に報告し  
なければならない。一、会員  
氏名 二、卒業年度 三、勤  
務先 四、現住所  
**第五条 (支部事務所)** 当支部の  
事務所は東京若しくは東京周

辺都市に置く。

#### (第二章 役員)

**第六条 (役員)** 当支部に次の役  
員を置く。

支部長一名 幹事会の推薦  
により総会において選出す  
る。副支部長一名 支部長が  
必要と認めたときは幹事会の  
議を経て総会で選出すること  
ができる。幹事長一名 支部  
長の推薦により幹事会の議を  
経て総会において選出する。

副幹事長五名以内 支部長の  
推薦により幹事会の議を経て  
総会において選出する。

事務局局長一名 支部長が副  
支部長の中から選出する。幹  
事 原則として各回会員中よ  
り一名を選出する。監事 二  
名以内 幹事会の推薦により  
総会において選出する。

**第七条 (役員の任務)** 支部長は、  
支部を代表し会務を総括し、  
幹事会の議長を務める。副支  
部長は、支部長を補佐し支部  
長不在時には支部長を代行す  
る。

幹事長は、支部長を補佐し  
支部の運営に当たる。副幹事  
長は、幹事長を補佐する。  
事務局局長は支部の総務、経  
理を担当する。

幹事は監事を除く他の役員  
と共に幹事会を組織し、会務  
の審議に当たるほか、所属各  
回会員のネットワーク強化に  
当たる。

監事は支部の会計を監査す  
る。又、幹事会に出席して発  
言することができる。

**第八条 (役員任期と再選)** 役員  
の任期は二年とし再選は妨げ  
ない。但し、補欠により選任  
された役員の任期は他の役員  
の残任期間と同一とする。支  
部長と幹事長は原則として三  
選されることは出来ない。

**第九条 (本部評議員)** 陵水会本  
部の評議員となる会員は支部  
長の推薦により幹事会の議を  
得て総会において選出する。  
任期は二年とし再選を妨げな  
い。

#### (第三章 会議)

**第十条 (支部総会)** 当支部は毎  
年一回通常総会を六月迄に開  
催するものとし、必要に応じ  
臨時総会を開くことができる。  
総会の議長は出席者より選出  
する。総会の決議は出席者の  
過半数をもって行う。但し、  
可否同数の場合は議長がこれ  
を決める。

**第十一条 (幹事会)**  
① 幹事会の招集は、支部長  
が行うものとし、原則とし

て、招集日の十四日前に、  
会議に付すべき事項、日時  
および場所を記載した書面  
により、幹事会のメンバー  
に通知するものとする。

② 幹事会は、監事を除く当  
支部の役員をもつて構成  
し、出席者の過半数をもつ  
て決議する。但し、可否同  
数の場合は議長がこれを決  
める。

**第十二条 (委員会)** 支部長は支  
部会報、名簿の編集発行、講  
演会、寄付金の募集、総会行  
事の企画実施、その他必要と  
認める会務を委嘱するため委  
員会を常時または臨時に設け、  
委員を委嘱することができる。  
委員の任期は一年以内とする。  
但し再任を妨げない。

**第十三条 (会費)** 会員は会費と  
して年額三、〇〇〇円を納付  
する。

**第十四条 (会計年度)** 本支部の  
会計年度は毎年四月一日に始  
まり翌年三月三十一日に終わ  
る。

**(本部規則の準用)**  
**第十五条** 本規則以外の規定に  
ついては、陵水会本部規則を  
準用する。  
(規則改定の変遷は省略)

## こんにちは

元東京支部支部長

(長年に亘り支部役員を歴任)

川本 茂氏 (大1回)

五月二十九日(火)、川本茂氏(大1)宅にお邪魔しました。足立区の東武伊勢崎線竹ノ塚駅東口から徒歩五分の「川本医院」と掲げられた五階建てビルの四階にお住まいです。氏には、長

く陵水会東京支部の役員を、そして平成元年度から平成八年度まで支部長を勤めていただきました。



——竹ノ塚のお住まいはいつからでしょうか

川本 昭和四十年、四十歳位のころからで、元は深川にいてね。家内の実家が清澄庭園の近くにあったからだ。竹ノ塚は北千住に次いで乗降客が多く、元々は農地で水田とか蓮田がいっぱ

いあって小魚の捕れる川もあった。ある意味での新開地ね。駅の奥が深いから、地下鉄が通るようになってから人が住むようになってきたね。昭和三十五、六年ごろから銀座から直通というようになって、日本橋に行くのに四十分ぐらいで行けるようになった。最初は松原団地が草加にでき、その後、こちらにも竹ノ塚団地ができた。

——奈良のご出身とお聞きしますが

川本 僕はね、彦根を知らなかったのよ。大阪に行くか京都に行くかで、彦根に経専のあることと自体知らなかったね。願書は自分で出したんじゃない(旧制)中学の先生が出されたんでね。奈良商業といつて奈良県立の。——先生の推薦で彦根に進学されたんですか

川本 もともと僕の母親は小学校の低学年に亡くなって、農家の子供だったのが極度に目が悪く色盲だった。小学校五年生のときに眼科に行つて将来失明する可能性ありといわれ、百姓するにしても稲刈りとかで目にちよつとでも触つて病気にでもなつたらと、農業もいけませんといわれた。全盲ではなかったが大学の眼科の先生は勉強どころ

でないかね。可哀想だが商業学校、中学校に行つたところでどうしようもない、丁稚奉公じゃないけれど手伝いに行かせればいいんじゃないかとまで言われた。

でも奈良商業を受験することになった。戦争中だったので試験らしい試験じゃなかったと思うが、何の間違いだったか一番で入っちゃったんだ(笑)。担任が鬼みtainな英語の学年主任で、英語排斥の時代だったけど、その先生が言うとおりの英語を勉強すればよかったんだが軍事教練のほうが面白くて、トッブに入つたのに英語をやらなかつた。そしたら一年生の成績が六十九点。級長の六十九点が笑

いものになって、成績は可や。もう勉強してやるかと思つたね。翌年は殆んど学徒動員。防空壕作りとか工場へ行つたりで、勉強する必要がなかった。

戦後、少しは勉強したんだろ。うな。婆さんに育てられたものだから、婆さんが病気になるって、受験どころじゃなくて、大阪の代用教員にされてね。昭和二十三年で、男の先生が少なかったからね。男は大歓迎、四クラスのうち三クラスは女の先生ね。小学校の四年生担任をしていた。

そんな折、俺をバカにしていた英語の鬼先生に進学しろと言われたが、親父はいいかもしれないが、婆さんが許してくれないから行きませんと言つたの。それでも、先生は受験票を取つて全部作ってくれてね。その先生は大阪商科大学(旧制)の予科に願書を出してくれたんだが、商業学校だから数学が出来ないんだ。落ちて幸いだと思つてたら彦根へ出しちゃった。当時は二回受けられたからね。

彦根でどこか分らん。調べたら滋賀県ということ、日帰りで行けると思つてたら、とんでもない、三時間も掛るわけ。合格はしたんだけど、婆さんに言つたら怒られるから行くと言えなかつた。病気の婆さんは就職できたことを喜んでくれてたから、代用教員を続けてたの。

ところが、馬場先生に電車で会つたんだ。「君、どうしたんだ。学校へ行かなくて」、「来年、京都かどこか、家から通えるところに受験しようと思つています」といつたら、いいこと言つて下さつたね。「日本では、京大とか東大とかいって一流の学校だといつてるかも知れんが、世界に大学で幾つあると思う。ケンブリッジとかオックスフォ

ードに行くために一年、二年遅らせても自分の希望するところへ行くというなら分るよ。京大や一橋へ行つて何をやるうとしてるんだ」というわけ。「彦根とはいいいところだよ」と。俺の出来がどの程度かわかつてるわけね(笑)。「カレッジライフをエンジョイできるのは彦根ぐらいしかないよ。それに最も相応しい学校だ。これからは何も苦学なんかして学問する時代じゃないよ。いかにエンジョイするかということだよ。カレッジライフをエンジョイするのは彦根が一番いいよ」といわれてね。

カレッジライフをエンジョイ

——カレッジライフはいかがでしたか

川本 それで、「えー、カレッジライフでどんなものか」と。それで行く羽目になったんだ。彦根に行つたけれど勉強しに行つたわけではないんだ。そう言われたから行つたんで、授業にはまともに出てないね。但し教訓を受けたのは哲学と秋山範二先生。秋山さんも高田彬先生の講義もあまり分らなかったが、あの当時は人生哲学に凝つてたんだろうなあ。戦後昭和二十三年頃の三木清とか西田幾太郎の

「善の研究」とか、多少興味があつて読んでたからね。他は経営学の山本（安次郎）さんが哲学的思考だったね。連続の非連続とか訳の分らないこと言つてたけどね。あの当時の先生は優秀な先生ばかりで個性があつた。商業関係の簿記とか会計とか、商業概論の芳谷（有道）さんとかを馬鹿にしていたがね。経済原論の白杉（庄一郎）さんになると何となく学問してるような、そういうのには興味があつたが、実務的なものは商業学校である程度やつてたからね。小倉（栄一郎）さんなんかは解ることを解らぬように教えているわけね、簿記なんか単純明快なのに。芳谷さんも今の社会科の常識なんだよ。学問みたいに言わざるを得ないわけね。

——懐かしい思い出は  
川本 「経営学論集」を作ったことね。昭和二十五年に日本学生経営学会という会の発足があつて、一橋大学の山城章先生が山本さんの後輩だけど、慶応とか早稲田の経営学専攻の先生方が、将来の経営学を勉強する学生たちを集めた全国の学生の集りをやるということがあつたのね。ゼミの山本先生が病氣になつて、僕を呼ばれて、「東京へ行かな

いか。彦根から代表を出してくれと言われているから」と。彦根に来たのも初めてなのに、関ヶ原を越えたことがない者に、東京へ行けといわれ、楠田迪彦（本<sup>24</sup>）さんとか四人で行つた。会合したのは覚えてないんだが、歓迎会といつてダンスパーティーが開かれたわけ。だけど田舎学生は何にも出来ない、東京の慶応の学生なんかの女の子とい格好して踊ってるのを見ていただけね。こんな癪に障ることはない、それで帰りに銀座へ寄つて、日劇ミュージックホールのカンカン踊りを見て帰つたね。

また中部学生経営学会といつて、彦根と名古屋大学、愛知大学、南山大学での論叢集を作つた。この冊子が楠田さんが復刻した本ね。こういうことをやらせてくれた。『盲、蛇に怖じず』で、訳のわからんことを話し、今考えるとまだ二十歳になつてないんだからね。彦根で発表したのはゴツトルの「言葉の支配からの解放」という題だったが、今見ても何のことか分らない（笑）。ドイツ語の原書を一所懸命に勉強したんだが。

彦根とはカレッジライフをエ  
ンジョイできるところだと、ま



さに勝手なことを一杯させてくれたということね。授業は出なかつたんだけど、専門学校を卒業したら高等学校の教員免許をくれたんだよ。二級のね。だから大学へ行くつもりじゃなかつた。だけど一応専門学校三年で編入したのね。その免許証で奈良高等学校の先生になるといつたら採用してくれたんだ。採用通知を貰つて、ゼミだけ出るだけ出りゃいいな、後は誰かのノートを借りりゃいいなと思つた。高校の三年生を担任だという。奈良高校は進学校で俺より頭のいいやつは一杯いたね。その当時、女学校と合併になつたのね。女の子が七割か八割で、簿記は商業学校で習つたからごまかしながらもある程度できたんだ。あと商業実務的なこと、いわゆるコレボン教えることになつた。女子生徒にもててね（笑）。

彦根から通えると思つてたら、

授業は週十六時間から十八時間に増え、ゼミに出られないのね。結局、三回生の一学期は一日も出ず、二学期の中頃まで出てなかつたら、高田馨先生から呼び出しがあつて、ゼミは出席しなければ論文出しただけでは卒業できない、留年させると言われてきた。それでは困るので学校に退職願出したんだ。途中退職は県も迷惑だし、学校の校長や上の人が責任取らされるわけね。自分の卒業した学校だつたから、迷惑掛けるわけにはいかないし、退職届は受理されなくて。幸い、その当時二学期の中頃は生徒の就職活動が始まり、休講しても良かつて、実習でいいということになった。だからゼミに出られて辛うじて認めてもらつた。馬場さんのカレッジライフのエンジョイもアルバイトすることだつたかも知れないが。そんなことをしてもよかった学校だつた。

#### 東京支部は戦前から

—— 陵水会東京支部の歴史的な経過を見てこれられていかがですか

川本 彦根高商というのは大正十五年三月に第一回卒業生が出ているが、卒業して同時に陵水

会になつてたかどうかは知らないね。同窓会は卒業と同時に出来てと思う。記録を見ると、東京に勤務した第一回の人で、卒業と同時に初代東京支部長みたいな方がいらつしやるね。その方が昭和二年までやられたが、関西へ帰られた。二回卒の伊東武郎さんという方が東京支部長という形で、昭和二年から二十二年までやられたことになっている。その方は税務官僚になられてある地位までいかれたんだが、その間は東京支部といつても支部として特に組織立つた活動をしておられたわけじゃないと思うね。総会を開いたりということとはなかつたと思う。戦中戦後だから同窓会どころじゃなかつた。その後、一回卒業の黛多慶男さんとか二回卒の保母道雄さんという三和銀行の副頭取になられた方々たちがやつてられた。

僕が就職したのは昭和二十八年だから、その時に東京に陵水会というのがあるのも知らなかつたし、案内もなかつた。昭和三十一年だと思ふんだが、岡田饒さん（本<sup>1</sup>）という東海銀行の常務をされていた方が、多分支部長だつたと思ふが熱心で、そのころ初めて滋賀銀行の東京

支店で総会が行なわれたという  
か、東京支部の集まりがあった。  
それに初めて僕は出た。一回二

みんな孤独だった  
——総会にはどのくらい集まら  
れたのですか

回卒業の方は五十歳前で、一番  
働き盛りの忙しい時代だったと  
思うが、学校の名を高めようと  
いうか、結束をしようという意  
味で熱心だったと思うよ。後輩  
に対する思いやりもあったし、  
結構、面倒見もよかったね。た  
また岡田浩さん（本24）とは  
専門学校同級生だったから、会  
合の手伝いをさせられたわけで、

川本 百名くらい集まったかな。  
陵水会の仕事を長くやってるが、  
今と殆んど変りないような気が  
するね。新聞を送ったのが最高  
二千五百部。二千三百から二千  
四百は送ってたからね。その中  
には地方に転勤した人にも送っ  
ていた。東京の在住者は二千を  
ちよつと切ってたかな。

昭和三十年頃から、彦根の本部  
の理事長とか支部の支部長のお  
手伝い役の羽目になってしまっ  
たの。

東京に勤務している人は、実  
際は根無し草やないけれど、故  
郷は小中高は全部関西にあるわ  
けね。東京に出て来れば知り合  
いが誰もいないわけ。地方の人  
に比べ東京の人たちがよくまと  
まったのは、孤独だったんだね。

当時、岡田さんが二、三年支  
部長をやられてた時に、芳谷  
有道先生が本部の事務局長を現  
職のままやってられた。先生が  
正式な陵水会の理事長になられ  
たのは昭和四十年か四十一年だ  
った。

東京に勤務している人は、実  
際は根無し草やないけれど、故  
郷は小中高は全部関西にあるわ  
けね。東京に出て来れば知り合  
いが誰もいないわけ。地方の人  
に比べ東京の人たちがよくまと  
まったのは、孤独だったんだね。

昭和三十年代、東京支部の総  
会は確か年一回行なわれていて、  
高商の五回卒業までの人たちが中  
心に、後輩の面倒を見るとい  
うのか、その時に経費を出し合っ  
たり企業にお願いして集めたの  
を使っておられたね。

川本 年令の開きがなかったと  
いうこと。考えてみると、現在  
は私の孫に当る人が入ってきて  
いる。その頃の大先輩といつて  
も私の親爺くらい年の配でしょ  
う。最高三十歳の開きだが、今  
は私が七十五歳で新入会員は五

十年以上も違う。全然変つちゃ  
うわけね。それはしょうがない  
ことで、その違いはあると思う。

川本 印象に残っていることは  
とんだが、機関紙を出そうと  
おっしゃったことね。「東京陵  
水」の字は高安さんだからね。  
その時に、たまたま佐野志郎さ  
ん（本18）という方が印刷所を  
やってられたから、引き受けよ  
うということになった。その時  
に毎日新聞社にいらつしやった

川本 高安先輩が発案されたこ  
とで、その違いはあると思う。  
——印象に残っていることは  
とんだが、機関紙を出そうと  
おっしゃったことね。「東京陵  
水」の字は高安さんだからね。  
その時に、たまたま佐野志郎さ  
ん（本18）という方が印刷所を  
やってられたから、引き受けよ  
うということになった。その時  
に毎日新聞社にいらつしやった

川本 高安先輩が発案されたこ  
とで、その違いはあると思う。  
——印象に残っていることは  
とんだが、機関紙を出そうと  
おっしゃったことね。「東京陵  
水」の字は高安さんだからね。  
その時に、たまたま佐野志郎さ  
ん（本18）という方が印刷所を  
やってられたから、引き受けよ  
うということになった。その時  
に毎日新聞社にいらつしやった

川本 高安先輩が発案されたこ  
とで、その違いはあると思う。  
——印象に残っていることは  
とんだが、機関紙を出そうと  
おっしゃったことね。「東京陵  
水」の字は高安さんだからね。  
その時に、たまたま佐野志郎さ  
ん（本18）という方が印刷所を  
やってられたから、引き受けよ  
うということになった。その時  
に毎日新聞社にいらつしやった

あったが最初はそんな発案もな  
く、べたべた貼ってたね。  
——何人くらいで

川本 最初は三、四人いたかど  
うか。とにかく何日もかけてや  
ったね。そのうち智慧がつき、  
まとまった人が集り、最初は佐  
野さんの事務所やって、やる  
たびに合理化していつて二十年  
近く続いたかな。宛名のラベル  
を京樽のほうでやってくれ、ペ  
タンと張るだけになっていった。



後輩の人たちが手伝ってくれた  
から出来たんで、ああいうのは  
一回や二回はできるが、継続し  
てはできないと思う。その人た  
ちが総会なんか動員してくれ  
たり、そういう意味では恵まれ  
ていた。当時は本部の機関紙は  
なかったんだ。そうすると地方  
の人たちも待っているわけや。  
情報源がほしいからね。一時は  
台湾までも送ってたね。

ただね、一番困ったことは二  
千三百のうち一割以上が返って

きたということね。半年もする  
と一割近い人の住所が変わる。経  
済成長が激しかった昭和四十年

代から五十年代の初めは移動す  
る人が多く、それで住所を調べ  
直して再発送をしなければなら  
ん。その当時はパソコンもない  
し書きでせざるを得なかった。  
すぐに新しいラベルを作れない  
から、それが百通以上二百通近  
くあった。その後処理は家へ持  
って帰って、家内に手伝っても

川本 やっぱ孤独だったんだ  
らう。関西から出てきて身近に  
感じるのは後輩先輩で、同窓生  
を身近に感じたね。ものを頼む  
んだって、東京に来てどこへ行  
つていいかわらん。結局そうい  
う人を頼っていつて話したら、  
あそこには誰々がいる、行つて  
話し、商売になったかどうかは

分らないが、話だけは聞いてくれる。これはありがたかったことだと思う。聞いてくれる先輩に会わせてくれて、そういうことで心を癒されたということもあったね。因みに葛上宗一郎（本20）さんはそれで生きのびたとおっしゃってたが、そういうことに東京陵水の存在意義があったと思う。

——他の支部と比べても結束力があつた

川本 彼の支部は地元でしょう。大阪の人は小学校も中学校も大阪だから、総会開くといつても集らなくともいいやと。集らないところはいっぱいあるんやから。勤めの会社の飲み食いはするけど、それはライバル同士の飲み食いだからね。

——東洋精糖にお入りになったとお伺いしています

川本 そう、東洋精糖に入ったのは、創業者が親戚で、行かざるを得なくて出て来たんだ。工場は江東区にあり、本社は日本橋の証券取引所の向かいの小網町にあった。映画の撮影にも使われたくらいに立派な建物で、ビルというのは殆んどなかった。小網町の日清製粉の近くに会社の寮があつて、そこに住んでいた。

——転勤はなかったんですか  
川本 なかったね。上場は東京と大阪の二カ所で、営業所は大阪にもあつた。私は永年、人事畑ばかりで、社内の問題だけだから、陵水会との人たちは仕事上の接触はなかったが、多少勝手なことをやってても周りは目をつむっていたのかな。だから陵水のこと動けた。高安さんから、芳谷さんが苦労しているから手伝いに行ってくれと言われ、東京から彦根までい

ても旅費も誰も呉れやしない。本部自身にも金がないんだから。年会費取ってないんだからね。入学の時に入会金は取ってるがすぐに使ってるわけだから、そんなことだから誰も行き手がな

いわけね。  
東京支部だつて昭和四十一年に支部規則を作ったわけで、そのときは渡辺吉造さん（本2）という安田信託の契約約款の神様みたいな、規約についてちゃんと良く知った人が作られた。単なる集まりだけではなく、やはり組織だったのをやらなくては

やり手がないから留任を妨げないという形をせざるを得なかったわけね。それが昭和四十一年。規約は彦根の本部にも出来てなかったから、本部の規約作成に用立てた。

#### 拠点作りを

——支部運営の良策は

川本 支部には拠点となる事務局が必要なんだよね。彦根には職員がいるが、東京支部だつて丸々同じようなことをやってるわけね。にもかかわらず安定した事務局がないのね。東京は、東京支部の拠点となる事務局を安定したものに出さないかということね。支部長とか幹事長が個人経営しているんならいいんだが、そうでなければ転々としなければならん。今は守谷貞夫

さん（大12）というオーナーだから出来るんだが、こちらは看護婦や事務にやつてもらつていた。佐野さんだつてそうね。そういうやり方にならざるを得ないと、それはね、大変なんだよ。出来れば安定した事務局を先ず確保できれば一番いいなと思つている。もしそうでなかったとしても、そこを一応連絡場所として安定したものにする。滋賀県人会の事務所でもいいし、

そこに誰か一週間に一回、顔を出すとかの所があつたら一番いいんじゃないかと思うね。

役員だつて、今は二年とか四年とか自己犠牲があつても仕方ないやとなつて、功なり名遂げたんだから多少皆さんに還元しようと思つてやつてもらつて

んだが、永年やつてれば、とてもしゃないがもたないと思う。今でも守谷さんにやつてもらつてるが電話一つにしても、その人はいいんだけど、やはり手伝つてる従業員もいるわけね。どうしても反感が出てくるわけよ、永年やつてると。社長のやることはしょうがないやと思つて

る間はいいんだが、五年も十年もやつてたらね、やつぱり出てくるんじゃないの。だから甘えることは出来ないから、皆さんが納得できる線での、拠点がなければなあと思つてゐるんだ。これからも旨くやつていくため

にね、幹部は二期なら二期、それ

がね、変わるかといえど難しい。今は旨くいつてるだけという

ことであつて、不安定な要因には違ひないね。  
歴代の理事長や支部長は、現役でそれなりに努力し真面目だったし、心があつた。同窓会なんかは心がなかったら出来ない

あぐらをかくな

——最後にこれからの大学、陵水会についてお聞かせください。

川本 陵水懇話会が、各方面で活躍している陵水会員からの応援を得て活発化しているが、

元々は大学と陵水会は車の両輪であるという基本的考えを確認し合い、丸紅の故池田松次郎氏(本11)に講師依頼したのが、今日まで続いている。

何れにしても、学校自身変わらなければいかんね。変

化させる得ないはずなんだよ。変つてるんだけれどテンポが遅すぎる。まず学校は個性という

か特色を出さねばね。昔は、近江商人の発祥の地だ、近江商人

の伝統を受けてるからと言って、また卒業生も近江商人の名を汚

さないために頑張らなければいかんということもあった。全国に十一高商あったが、トップク

ラスの高商に高められたのは、伝統というか歴史を踏まえたう

人じゃ世界に通用しないね。ア

ジアの近江商人、世界の近江商人にならねばいけない時代なん

だから。それにはどうしたらいいか。

例えば、三カ国語はマスターしないヤツはね、卒業させてやらないという厳しい一面もあつてもいいと思う。それを中途半

端なことまで卒業させてはいかんと。会計だってリスク管理にあ

つてはどれだけ特色を出すか、地方だから。東京なんかはい

いよね。中央の大学に負けないために、大学は考えてもらわな

ければならない。どちらにしても日本の臍に当る滋賀県にいる

のなら、それを利用するなり環境を利用するなりして、何か新

しいことを考えていかないと、その他大勢の大学じゃ消滅する

これは昔みたいところがあつ

ていいというか、故郷感覚が出るようなものね。通用しないか

もしれないが。あれもこれも幹事長、支部長に責任もたせたら

出来ないんだから。写真とか碁とか将棋、ゴルフとか現在やつてるのと同じように、歩こう会とか健康づくりとかで共通の者

## シャンソン、歌、

### 人生の応援歌

田中 和夫(大18)

幼少の頃より絵画が好きで、その関係で大学の第二外国語と

して仏語を選択、NHK語学講座に流れるシャンソンが心の琴線に触れその後、シャンソンのレコードを買い漁ったり、シャンソンコンサートに聴きに行っていた。

結婚後も傾聴していたが大阪から横浜へ転勤後、四十歳を過ぎてから聴くだけでなく、歌う

ことにも興味が湧き出しプロの歌手に師事、発表会等に参加していたが、音楽プロダクション

の方の勧めで四十歳代半ばより、横浜のホテルで初の「車戸兵磨・くるまどひようま・(芸名)シャンソンコンサート」を開催。

のボランティア精神を発揮する

ような核を作り上げていくこと

ね。年代がこれだけ分かれていくんだから、それを共通なもの

でやっていこうとするには何をするかということね。共通のものについては支部が何らかの形で応援し、援助する。会員も高



齢化して六十五から八十までの十五年間、東京で遊ばなきゃな

その頃、同じ門下生ではあるが習い始めてすぐ才能を発揮、都内のシャンソニエ(シャンソンを聴かせるお店)に出演するよ

うになった女性と妻と私が気が合い、意気投合し、年に一、二度、ジョイントコンサートを開

催してきている。妻が私の影響でシャンソン伴奏もするようになり、お声がか

らん。田舎へ帰らないとなれば

その人たちの勢力を、団塊の世代に対してじゃないけれど、旨

く活用するために陵水会がそれなりのサポートをすることも必要だね。

——今日は貴重なお話を有り難うございました

で、音楽教室を親御さんが手

りて模様変えをし、父兄の方々に聴いていただく試みをしたところ、子育てに手がかり、なかなか都内に出て昔馴染んだ

「シャンソン」など聴くことのない父兄の方々にとっては、すぐ身近に聴けるということ

で辛くなる式に話題になり、次々と近郊学校でのライブを三人で手掛けてきた。

同時に、老人ホームにも三人コンビで出張公演として慰問活動を続けて来た。ホームでは四

十五分間以内の公演に心掛け、入居者の方々に合うような選曲をし、童謡などを織り混ぜ親し

みを感じていただくよう配慮も講じた。一人で生死と背中合わせに生きておられる人生の先達者ばかりなので、逆に私達が勇

# ゴルフ談義

謝している次第である。

私はサラリーマンで、しかも女性歌手もウィークデーには制限があるので、催しものは全て土・日曜のいずれかで実施してきた。場合によってはキーボードを持ち込み、リズム曲想のものには臨場感を出すようなこともし、ピアノ伴奏と並行しながら一味違う音色脚色が出来のるのも、巷のシャンソニエでは味わえない楽しみかと思う。

十五年程、サラリーマンの傍ら続けてきたのだが、既に定年退職した今後は、今まで培ってきた音楽を通じての人脈を活かし、音楽という万国共通の普遍的なツールを通して一人でも多くの方々に喜んでいただき、元氣になっていただければと願うばかりである。

世の中、歌の上手い人は万といる。私たちは歌とトークと三人の阿吽の呼吸によって醸し出すほのぼのとした暖かさを、聴いている人たちと一緒に共有し、一時の心地良さを感じてもらえれば良いと思うのだが。

歌を聴いていただくというよりも、与えられた時間をドラマとして受け取っていただき、聴いていただく人達への人生の応援歌の一助になれば嬉しいこと

18ページ4段に続く

六十九回東京陵水ゴルフ会  
平成十九年四月十日（火）  
金乃台カントリークラブ

参加者遂に四十名突破！

晴・無風、絶好のゴルフ日和に恵まれ、今回も新参加者が三名あり、四十名十一組で、熱戦が繰り広げられた。好コンディションの中、四位までアンダーパー、二位三位四位同ネットと大接戦であった。



優勝は四回目の出場の中村弘、準優勝は久方ぶり出場の小口、三位は金井、ベスグロは同スコアで名口・金井さんといずれも十四回卒が独占する十四回卒大活躍の大会であった。

宇治原支部長の乾杯で始まったパーティーは、ビール、ワイン、日本酒とメートルが上がるに従い彦根時代の話やゴルフ談義などに花が咲き、ヨット部応援歌、高商校歌斉唱でやつとお開きとなった。貸しきり臨時クラブバスで全員帰路についた。



## 〈成績〉

|      |            |        |
|------|------------|--------|
| 優勝   | 中村 弘(大14)  | 68(19) |
| 二位   | 小口 晃(大14)  | 69(17) |
| 三位   | 金井 肇(大14)  | 69(10) |
| 四位   | 川崎 憲夫(大17) | 69(15) |
| 五位   | 山本 孝之(大9)  | 72(16) |
| 九位   | 井口 博民(本21) | 75(22) |
| 十位   | 佐藤 秀孝(大10) | 76(14) |
| 十五位  | 吉井 幹雄(大14) | 78(22) |
| 二十位  | 田村 寿夫(大12) | 80(19) |
| 二十五位 | 畠山義生(大10)  | 81(13) |
| BB賞  | 坂田 忠彦(大9)  | 92(12) |
| ベスグロ | 名口・金井      | 79     |
| ニアピン | 箸方・西岡・小口   |        |

名口・金井・滋野(2)  
大波賞 田村(9打差)  
水平賞 西岡 (山本保 記)

東京陵水ゴルフ会  
第七十回記念大会  
平成十九年六月十三日(水)  
金乃台カントリークラブ

一九九〇年三月十三日第一回大会以来、毎年四回開催、実に十七年半、七十回を迎えることとなった。先ず全員揃って記念写真撮影。快晴・無風と絶好のゴルフ日和に恵まれ、熱戦が繰り広げられた。

優勝は二年ぶりに出場の中西(大5)、準優勝・畠山(大10)、三位・金井(大14)。同じネットスコアア者が三人、四人、五人いるという、ネットスコア差二十の間に四十五名がひしめき合う大混戦であった。中辻長老の乾杯で始まったパーティーでは、記念大会に相応しく、第一回からの開催月日・参加人数・優勝者・トピックスなどを記載した歴代優勝者一覧表(箸方先輩資料提供、山本編集)を配布。東京陵水ゴルフ会を立ち上げこれまで継続維持発展に功労のあった「佐野志郎(欠席)・中辻喜蔵・川本茂・小池英夫(欠席)・箸方海三・楠田迪彦の各氏」と

七十回皆出席の井口博民氏に感謝の意を表し、宇治原前支部長から記念品が贈呈された。

その後は、いつも以上に盛り上がったパーティーとなり、高商校歌を高らかに斉唱し、金乃台CCCからのお祝いの記念品を手には六時二十五分、特別仕立てのバスで帰路についた。

なお、次回第七十一回大会は、宇治原杯取り切り戦も兼ね、九月十三日(木)に開催。

新規参加希望者募集！ 大15回山本保(〇四七―三三七―四七八〇)までお電話下さい。

## 〈成績〉

|      |             |        |
|------|-------------|--------|
| 優勝   | 中西 三一(大5)   | 74(25) |
| 二位   | 畠山 義生(大10)  | 75(13) |
| 三位   | 金井 肇(大14)   | 75(7)  |
| 四位   | 長嶺 英則(大15)  | 75(16) |
| 五位   | 岡田 巖(大2)    | 76(24) |
| 七位   | 山口 昭夫(本22)  | 77(36) |
| 十位   | 滋野 輝彦(大17)  | 77(8)  |
| 十五位  | 竹内 鋭二(大4)   | 79(15) |
| 二十位  | 北村 徹(大14)   | 80(15) |
| 二十五位 | 中辻喜蔵(本21)   | 82(30) |
| 三十位  | 箸方 海三(大4)   | 85(12) |
| 三十五位 | 西沢 正(本24)   | 86(18) |
| 四十位  | 中村 弘(大14)   | 91(11) |
| BB賞  | 鶴見 芳令(本24)  | 93(20) |
| ベスグロ | 名口 79       |        |
| ニアピン | 山本(孝) 加藤(2) |        |
|      | 名口(2) 中村(奎) |        |

大波賞 木下(10打差)  
水平賞 井口 (山本保 記)

## 第五回卒

### 卒業五十周年記念同期会

## 東京陵水会囲碁会便り

去る六月三十日(土)、全国情報サービス産業厚生年金基金会館で、東京陵水会囲碁会を開催しました。

十六名の参加を得て、A、Bグループに分かれ、四回戦の熱戦を繰り広げました。今回は最長老の佐野志郎六段(本18)が体調を崩され不参加となりました。健康を回復されたの機会にはご参加できますことをお祈りしながら、大会は順調に、無事終了しました。終了後、表彰式、懇親会に移り、熱戦の後を振り返ったり、近況を和気藹々に語り合いながら、散会しました。

結果は以下の通りです。

### Aグループ

優勝 畠山 義生 六段(大10)

二位 鈴木 克治 七段(大14)

三位 神崎 栄次 六段(大3)

### Bグループ

優勝 刀祢館信雄 四段(大8)

二位 用田 政一 二段(大3)

三位 新宮 毅 四段(大2)

(三井照次 記)

彦根城のお濠の水に垂れ下がる桜がこんなにも見事だったのか。そんな素晴らしい満開の桜に迎えられて我々第五回卒六十二名、夫人七名計六十九名は、四月十四日彦根駅前「ホテル・サンルート彦根」に集まった。

ご夫人方のせいか華やいだ雰囲気気が漂っている。いつもの石橋勲君の名司会で始まり、代表幹事早瀬研君の深みのある挨拶。挨拶の中で以下の報告があった。

出席者数は今回六十九名(内夫人七名)。五年前は八十四名(同九名)。十年前は九十四名(同十七名)。亡くなった方は卒業総数百八十名中三十名で消息不明者が四名とのこと。約二割の方がもうすでに不在なのだ。生存者のうち約半数が不参加である。その中には病氣療養中の者もいるだろう、経済的に困難な者もいるかもしれない、所用のためどうしても出られなかった者もいるだろう。いずれにせよ年々集まりが悪くなっている。五十年の歳月を感じざるを得ない。

乾杯の音頭は、はるばる九州からやってきた喜多亮司君が指名された。しばらくは同じテーブル内でのグラスの交換、雑談が続いていたが、次第に他のテーブルに出かけて行き、いつの間にか会場全体が盃の交換、懐旧談、現況の交換等々と賑やかな交流のるつぽと化した。瞬く間に時間は過ぎて行く。その内歌詞のチラシが配られ、旧グリークラブの面々を中心にステージに上がり、高商校歌、偲聖寮寮歌を全員で合唱し、学生時代に戻って懐かしみ、友情を確かめ合った。その後グリークラブ員のみでの歌の披露等があり、樋上泰功君の発声で中締めとなったが、みな去りがたく、都合のつく者だけでその場での二次会と相成った。そこで今までもつとこの会のお世話をしてくてくれた早瀬ご夫妻に、その労をねぎらおうと花束を送ることとし、全員の大拍手のもと花束を贈った。そして最後に小生の提

## 大学十八回卒同期会開催

大学十八回卒同期会を四月二十日東京駅名店街「ニュートーキョー・旬さがみ」にて開催しました。東京支部平成十八年度定時総会の運営を我々大学第十八回卒業生(昭和四十五年卒業)が、担当して以来一年ぶりに、顔を合わすことになりました。昨年は定時総会の運営準備のために三回会合を開き、四月には第一回同期会(卒業以来はじめて)を開催しました。第二回となる今年の同期会は、私中村嘉秀(ダイニチ)が本部との窓口役を担当している関係から同期諸兄に声をかけることにしました。案で、次回からは二、三年間隔で有志が幹事となって開くこととし、次回は東京地区が担当することとなった。お開きの後、さらに有志が場所を換え「長浜ロイヤルホテル」での三次会となった。彦根駅前十七時三十分迎えのホテルのバスで長浜へ。同期生二十六名夫人五名の参加だった。ゆつくり風呂に浸かり酒の疲れを癒し、再び宴会に臨んだ。一同、同ホテルに泊まり、翌朝朝食後、次回の再会を誓って解散した。(細井恭一 記)

昨年来連絡を取り合い、定時総会の運営に協力をいただいた田中和夫、岡田憲治(サムシングホールディングス)、吉村政彦(三井物産)、村瀬尚文(博報堂)、影山哲也(アルク)、佐々木弘二(税理士)、今津松男(双日リアルネット)、小倉好博(桜ゴルフ)、岡本文夫(衆議院議員政策担当秘書、兼松泰男(伊藤忠テクノソリューションズ)、吉田正行(東京オペラシティビル)、西川清悟(大星ビル管理)、小沢和彦、市岡隆治(双日都市開発)、杉浦理介(富士薬品)、松本剛(コベルコ建機)、の各君からネットワークが広がり、木下智、池田等(ジューケーパート

ナーズ)、徳山秀雄(千代田)、三木重男(日本ヴィクター)、小梶清司(日本国債清算機関)、羽場知広の各君にも案内が出来たようになりました。当日は十二名の出席でした。今年は還暦を迎える年になり、それぞれの身辺にも変化が起きる年になりそうです。出席者が現況を報告し、お互いの健康を確認し喜び

昨年総会の幹事になったことが同期会の開催につながったことから、総会が多くの会員の皆様のご出席により、同窓生相互の交歓と今後の励みになると思いい、少しでもお役に立つよう、大学十八回卒同期一同、微力ながら協力したいと思います。宜しくお願いします。

(中村嘉秀 記)

### 東京五陵会春の例会



今年も恒例の東京五陵会(五回生同期)山登りの会を五月二十四日二十五日に行った。那須連峰の主峰茶臼岳である。今なお水蒸気を吹き上げている標高千九百メートルの活火山。標高の割にバスとロープウェイを利用すれば山頂に短時間で立つことが出来る。東北新幹線那須塩原駅に降り立つと、本日のメンバーに会う。龍口、久木、天田、大阪の近藤夫妻と小生の六人。先に中西、樋上、中川の三人はロープウェイ山麓駅へ行っている由。市木はホテルで合流、計十人である。

東京支部総会の日程が五月十六日であり万難を排して出席すること、及び大学十八回卒第三回同期会の日程を平成二十年四月十八日と決め、毎年同期会を開催することになりました。

須高原である。那須温泉を経て那須湯元温泉を過ぎた頃急に大きく右にカーブを切り高速道路に入る。高速に入ると右に左にカーブを切りながらぐんぐん高度を上げてゆく。塩原駅を出て約一時間十分ロープウェイ山麓駅に着く。千四百メートルの高原でバスを降りるとさすがにひんやりと涼しい。ロープウェイは百十人乗りの大型ゴンドラ。標高差三百メートルをわずかに四



分で山頂駅に運んでくれる。山頂駅は茶臼岳の九合目。あたりは火山特有の地形で草木はほとんどなく、殺伐として高山の雰囲気にあふれている。目の前に聳える山肌むき出しの朝日岳の険しい山容がさらにその雰囲気盛り上げているかのようだ。山頂まで初めは砂礫の道を上る。天気は上々だが風が強い。

遮るものは何もない。帽子を抑えて黙々と上る。中学生等登山者も結構多い。しばらくすると道が一変し、火山岩の堆積の中をよじ登る。山麓の展望も、より雄大に広がり素晴らしい。その内傾斜もぐつと緩くなると頂上も近い。那須嶽神社の鳥居をくぐると大石で散乱した頂上である。小さな石の祠があり参拝する。登り始めて約一時間、早い人は四十分とのこと。我々はい人は四十分とのこと。我々は山頂下の岩の窪みで昼食とした。帰りは同じ道を下るのだが砂礫に足をとられて神経を使い、下りも大変だった。再びロープウェイで下り、そこから先は本日の宿泊所である「休暇村那須」まで山道を歩いて下った。ホテルについてフロント前にあった冷たい水のなんとうまかったことか。温泉に浸かり今日の疲れをとる。夕食を済ませると、例によって二次会。遅くまで飲みながら雑談。翌日は朝食後ホテルの車でバス停留所まで送ってもらい、バスにて一路JR那須温泉駅へ。楽しい山登りだった。いつまで続けられるだろうか。

(細井恭一 記)

## 彦根コンフィデンスヤル

——滋大陵水新聞会

### 彦根城と滋賀大学

滋賀大陵水新聞では毎年五月ごろ、その年に新しく本学へと赴任された教員を紹介する記事を掲載している。その記事の中で「滋賀大学の印象は」という新任教員への質問項目がある。その答えの多くに「彦根城が近くて驚いた」「彦根城お堀の桜がきれい」などがあり、滋賀大学にとって彦根城の存在の大きさがうかがえる。

学生にとっても彦根城は身近な存在であり、それはこの先、滋賀大学が移転でもしない限りずっと変わらないだろう。だがその彦根城のことについて、何も知らないという学生が以外に多い。滋賀大学のイメージは彦根城だと答えるが、実際は答えられない。実際に彦根城へ行ったことがあるという学生も少なく、行ったことがある人も何かきっかけがなければ行か

なかったという人が多い。あまりにも身近すぎて関心を持てないというのが本音のようだ。

彦根城の冠詞として、「国宝」という言葉がよくつけられる。それは彦根城が全国でも数少ない、現存する木造の天守を有しているからである。当時のままに残っているものは少ないという。この彦根城の天守が完成し



たのは慶長十二年（一六〇七年）頃とされている。今年でちょうど四〇〇年目を迎える天守ということだ。彦根城自体は、慶長九年（一六〇四年）頃、初代彦根藩主井伊直政の嫡子・井伊直継（直勝）により築城が開始された。

城といえば戦のイメージを思い描く方も少なくないだろう。

しかし彦根城は一度も実際に攻め込まれたことがないのである。かといって戦を想定して造られていないわけではない。攻め込まれにくいように城内は回り道が多く、城内の勾配も急だ。城自身にも急角度の階段や、隠狭間や鉄砲狭間など戦時中の防戦設備を備えている。彦根城の築城にあたり、佐和山城を始めとする多くの古城や古寺から資材

が集められたという。たとえば天守は天津城から、天秤櫓は長浜城大手門から移築の可能性があるとされているが、これらは築城を急いだという理由以外に、戦国時代以来の古城・古寺を解体し戦の根を絶やしたいという彦根藩や江戸幕府の思いがあったからではないかと推測されている。彦根城は戦国時代に築かれた多くの跡をその城内に残しながら、そのあと平和の中で保存されてきた城であるといえる。

あと彦根城は桜の名所としても有名である。彦根城には一〇〇本あまりの桜が植えてあり、春には多くの観光客が訪れる。桜そのものを直接見るのも十分に楽しめるが、水面に映った桜を間接的に見るというの他とは違った趣ある見方だろう。特に夜にライトアップされた夜桜

が、深く暗い堀の水面に映し出されるその光景はとても神秘的である。

彦根城の事について知ることが、滋賀大学のことをさらに知る手がかりとなるのではないのだろうか。そういつても過言ではないほど、彦根城と滋賀大学との関係は深い。

滋賀大学の前身である彦根高等商業学校が彦根の地に来ていなかったら滋賀大学と彦根城の関係も存在しなかったことになる。それから八十年余り、滋賀大学は彦根城と長いお付き合いをしてきた。そして彦根城にとっても滋賀大学はなくてはならない存在となったのである。

彦根城は今四〇〇年祭を開催している。滋賀大学も協賛事業として様々なイベントを企画・実行しており、四〇〇年祭を盛り上げるのに一役買っている。例えば経済学部付属史料館では春と秋に一回ずつ特別展を開催。本学講堂では、『桜コンサート』と題したソプラノ奏者の日下部祐子氏によるオペラコンサートや、邦楽演奏が楽しめた『講堂で聞く「男組」の調べ』などがすでに行われた。どちらも

一般市民を招待したことに大きな意義がある。これにより『地

域に根ざした滋賀大学』がよりいっそうアピールできたように思われる。他にも学生（文化サークル連合）主催によるカラム大会などでも滋賀大学協賛事業として行われた。彦根の伝統的遊びであるカラムを体験することにより、また一つ彦根を知ることが出来たように思う。また『滋賀大生皆で彦根城にのぼろう』といった事業も好評だった。文字通り滋賀大生がみんな彦根城に登城すると言ったものである。前述したように彦根城に行ったことのある学生は以外に少ない。目と鼻の先にあるにもかかわらず。そんな学生にきっかけを与えてくれたのがこの企画であった。参加者五十名は普段見ない城の内側を見ることが出来て、文字通り新しい一面を発見できたように思う。滋賀大学協賛事業はそのほかにも講演会や公開講座などを予定しており、四〇〇年祭実行委員会として四〇〇年祭を盛り上げていく予定である。

内では知らない人はいないと言えるほどの人気者となった。彦根城に隣接して存在する滋賀大学経済学部、お互いの存在がお互いにとって有益となるこの状態は本当にすばらしいものだ。過去から続いてきたこの関係をこれからも継続させていく事こそが、滋賀大学の更なる発展へとつながっていくのではないだろうか。

#### JRの駅に「滋賀大学」

今年四月から滋賀大学の広告看板が大学近隣JRの諸駅に掲示されている。国立大学法人としての広報活動の一環である。広告の主たるターゲットは、大

学受験生とその父兄、関係者。滋賀大学の存在を印象付けるための大きな効果を狙っている。爽やかで深みのあるブルーをバックに優しさや知性を滲ませた女性の顔から肩への姿を大きく映し出し、「教育・経済の現在（いま）を学ぶ」の惹句が躍り、琵琶湖を表象化した滋賀大学章の彦根に当たる部分に「経済学部」、大津のそれに「教育学部」と表示されている。

掲示されている駅は、新大阪、金山、山科、尼崎、石山、彦根。期間は来年三月までの一年間。

# 滋賀大学サマーカレッジ開講

この度、滋賀大学では社団法人びわこビクターズビューロー、近畿日本ツーリスト(株)との企画、共催のもと滋賀大学サマーカレッジ「平成滋賀塾」を開講することになった。

「滋賀を知らずして日本の歴史を語るなかれ」とのキャッチフレーズのもと、滋賀の地域、環境、歴史を九日間にわたって学ぶ講座である。講師団には、滋賀大学教授陣はもとより、学外講師として嘉田滋賀県知事、井伊家十八代当主、比叡山延暦寺大僧正その他が招かれ、はば広い講座が行われることになっており、陵水会員をはじめ多くの参加が期待されている。

サマーカレッジの開講内容は左記のとおりである。

○日程 八月三十日(木)～九月七日(金)。(九月八日～九日は希望者による懇親旅行。)

○場所 滋賀大学経済学部キャンパス。○募集人員 八十名。

○受講料 十二万円。○詳細問合せ・申込はKnt!各支店。

平成十九年度年会費納入者一覧

(平成十九年六月末現在)

山上敏夫 松居敏郎(本11)、初田修(本12)、佐田健造(13)、船見祐治 清水源一郎

|                      |                 |                                               |
|----------------------|-----------------|-----------------------------------------------|
| 林越夫(本15)、西田昭一(本16)、小 | 子 辻 昇平 寺田又三 箸方  | 川合久嗣 川崎正磨 小林貞夫 彰 皆川則雄 上田 求 北本                 |
| 野志郎(本17)、山廣 新 佐      | 海三 原澤伸治 廣内士郎 福  | 関 恵文 野一色公平 松浦紀 正和 岸岡真人 福原 隆 平                 |
| 木克幸(本18)、石田定夫 高      | 島吉治 簗島安夫 安江郁夫   | 久雄(大11)、稲邑明也 小原 井善三(大20)、米山 脩 脇               |
| 辻 暢夫(本19)、葛上宗一郎      | (大4)、天田志郎 飯島 勲  | 捷治 守谷貞夫 田村寿夫 中 坂守(大21)、縣 忍 能                  |
| (本20)、相道 章 犬塚昌一      | 井上明郎 岡田和義 神谷 亨  | 村 弘 平居俊雄 堀川幸夫 島伸夫 小林忠志 山脇一泰                   |
| 梅沢誠質 河添治男 竹内政太       | 龍口秀夫 中川郁三 樋上泰功  | 宮野幸雄 山口和俊(大12)、 朝比奈冬男 内川晃廣 小林三 玉置辰司(大23)、湧川勝巳 |
| 郎 土田 茂 豊田弘毅 鳥居       | 三井正勝(大5)、今宿隆弘   | 郎 近藤達也 中村奎吾 星出 齊藤裕士(大24)、田村宏昭                 |
| 和也 中辻喜蔵 吉村行雄(本       | 白井 靖 大久保義雄 大谷毅  | 潔 若山 忠(大13)、安部 安井喜重 濱塚純一(大25)、                |
| 21)、高山義雄 多賀芳則 寺      | 丈夫 河合正紀 川村和男 草  | 誠 小口 晃 葛山 薫 加藤 上林好一 池田栄樹(大26)、                |
| 本康郎 丹羽鑛治 橋本 侃        | 生知治 小林仁美 児嶋正次   | 博善 北村 徹 古山捷二郎 足立浩次(大27)、岡野茂樹                  |
| 林 輝治 山口昭夫(本22)、      | 高橋秀治 中村博一 橋本長夫  | 土井健一郎 中村 弘 野村英 辰農雅司(大28)、浅見 徹                 |
| 瀨川泰助 都世子進 西尾 實       | 磯部一郎 伊藤芳朗 市川浩久  | 機 羽測展世(大14)、木下英 吉本準一(大29)、藤原洋一                |
| 前川彌之祐 松本 義 山田昌       | 了 鈴木重成 高木 巖 富永  | 男 鈴木 勝 柘野茂樹 富田 吉田繁喜 和田昌信 浅野卓也                 |
| 雄(本23)、大竹德行 岡田       | 宇治原嘉政 浦谷政夫 佐野   | 博司 馬島惟安 藤本幸延 三 上中 誠 武田吉史(大30)、                |
| 浩 加納淳司 楠田迪彦 高木       | 早苗 西澤 正 矢田佳三 保  | 谷邦男 山本 保 鶴見芳令 黒岩征一郎(大31)、小林智子                 |
| 正 保(本24)、奥村忠雄(東      | 義孝 西野 宏 東野和弘(大  | (大15)、木津勝治 木戸 彪 酒井康就 東 徹 柳 雅二                 |
| 1)、井上泰一(東4)、川瀬孝      | 7)、天木清次 小塩正長 尾  | 嶋多 優 浜口栄治 渡辺雅利 (大32)、清塚 徳(大33)、郡              |
| 太郎(東5)、落合忠一(別11)、    | 瀧川雅一 刀祢信雄 林 史   | (大16)、岡本和之 川崎憲夫 山泰知 岡武俊雄(大34)、能               |
| 内海清安 小池英夫 外村英造       | 欣 松岡健雄 安田一雄 渡邊  | 蔵田昭憲 栗林 昭 柴原良昭 登英彦(大35)、鈴木 誠(大                |
| (大1)、我孫子孝 乾 哲彦       | 芳秋(大8)、小野 浩 日下  | 豊田徳司 西尾郁夫 若山典男 36)、久野康成 吉村栄祐(大                |
| 岡田 巖 亀井潤吉 郷 治雄       | 部百也 田川行雄 中川和己   | 滋野輝彦 越後和斉(大17)、 37)、大原孝明 北川昌樹(大               |
| 澤井良治 柴田茂夫 新宮 毅       | 中島勝司 西坂徹雄 西田広彦  | 市岡隆治 岡本文夫 影山哲也 38)、立木賢一 吉田 裕(大                |
| 刀欄館治男 宮崎 正 水引芳       | 乗富俊二 平瀬武明 藤本裕一  | 田中和夫 中村嘉秀 松本 剛 40)、上田 修 山本雅由(大                |
| 雄 四塚行雄 渡辺陽彦(大        | 郎 宮田 昭 山本孝之 吉原  | 栗原喜代次(大18)、 丹羽信治 42)、武井 均 吉田勇一(大              |
| 2)、田中 博 神崎栄次 小       | 悟一(大9)、井上善隆 白井  | 山崎竹夫 和田博之 井上博之 43)、栗原達幸(大46)、川瀬               |
| 八木俊雄 清水克純 清水善和       | 健 小塩 守 佐藤秀孝 小西  | 岡 廣司 越智剛郎 柴田吉典 論(大49)、中島幸一郎(大51)、             |
| 中川弥次 野口泰良 増田茂樹       | 捷治 田中俊男 坪田清六 豊  | 西本正義 稲野辺敬義 門平孝 松江大輔(大53)、肥田茂之                 |
| 用田政一 吉村 恒(大3)、       | 原憲二 中川寿一 中沢龍彦   | 二 郎 竹森二郎 戸田保延 宮 (大54)、清水俊彦(短4)、日              |
| 今井常清 粕渕健三 北川 享       | 中村寿男 島山義生 服部全孝  | 川 誠 浜 筆治 寺井与利雄 高信次(短9)、沼田 満(短                 |
| 佐々次郎 新道隆弥 田岡譲一       | 細谷 隆 三井照次 山田 進  | 江頭晋一郎 小山久照 阪口義 13)、刈谷忠彦(短14)、島 康              |
| 竹内鋭二 谷 文夫 樋上不二       | 山田宗弘 山本啓司(大10)、 | 嗣 土井利明 小川一總(大 介(院27) 計三百十六名                   |

注・傍線は口座振込利用者

滋賀大学サマーカレッジ!

# 平成滋賀塾開講

～古代の大津宮・紫香楽宮から織豊時代・近江商人・地球環境問題まで～  
滋賀の地域・環境・歴史を学ぶ9日間

古代より滋賀は日本の「知恵」でした。大陸より賢人を招き政治のしくみ・産業・文化を吸収し、発展させてきました。温故知新! 先人に学び未来を創造しましょう。



## 主な講義内容

- 滋賀県知事 嘉田由紀子 / 「もったいない」で日本の未来を語る
- 彦根城築城400年記念講座  
井伊家18代目当主 井伊岳夫氏 / 江戸時代の譜代大名井伊家
- 比叡山延暦寺大僧正 即真尊賢氏 / 日本音楽の源流について
- 成安造形大学学長 木村至宏教授 / 近江と戦国時代 -とくに織田信長を中心に-
- 宇佐美英機教授 / 近江商人と立身・出世
- 小笠原好彦名譽教授 / 古代の宮都の大津宮・紫香楽宮を考える
- 遠藤修一教授 / 調査艇によるびわ湖体験学習 など全17講座

受講料 (お一人様) **120,000円**

■ 受講期間 / 平成19年8月30日(木)～9月7日(金)9日間

■ 募集人員 / 80名

■ 最少催行人員 / 20名

■ 研修場所 / 滋賀大学おもに彦根キャンパス

■ 含まれるもの / 講義、入学式、オリエンテーション・キャンパス見学、ウエルカムパーティー、卒業式、学外講座費用、3・4日目の学外研修旅行費用(食事付)

■ 含まれないもの一部 / 移動費、宿泊代金、後期研修旅行費用(10・11日)等

《お問い合わせ・お申込み》

**knt!** 近畿日本ツーリスト 大津支店

TEL. (077) 522-7518

「平成滋賀塾」受付デスクへお電話下さい!!

● 営業時間 / 9:15～18:00 ● 定休日 / 土・日曜日、祝日

総合旅行業取扱管理者 / 鈴木 道雄

詳しくは - <http://www.knt.co.jp/ksb/manabutabi>

十三ページから続く  
であり、一期一会の思い出として  
幸せに思っていたただければ幸  
いである。

## 編集所感室

十九年度支部総会は西坂徹雄氏を新支部長に選出、支部の抱えている諸問題の解決に向けて、更なるスタートをしました。

今期の大きな課題は、大学教育研究支援基金の運動を、支部会員挙って協力し、成功させることにあります。本支部の成功が全学的成功に通じることになります。国立大学法人化は大学経営に次第に財政的負担を増やしています。歴史ある大規模大学も、持てる能力をフル回転させてこれに対応しています。歴史と伝統にかけては、わが母校も他に引けを取りません。将来の成長を強く期待し、支援の手をしっかりと差し伸べたいと思います。

支部の組織強化と財政の健全化に関連して、改定支部規則の全文と今号も年会費納入者を掲載し、支部活動への一層の理解と協力を願うものです。(H)

## 発行所

〒236-0004

横浜市金沢区福浦1-14-9

守谷輸送機工業(株)

電話045(785) 3716

印刷所

〒110-0015

東京都台東区東上野1-28-3

船舶印刷(株)

電話03(3831) 4181

※編集室のメールアドレスは  
hyskys@yahoo.co.jp  
(次号分、切日十月末日)

「会報」原稿・情報ご送付先

林 史欣(大8回)

〒164-0014

中野区南台二一五-10

(TEL・FAXとも)

〇三-三三八一-四四三一

陵水会東京支部  
ホームページアドレス  
<http://www2.ocn.ne.jp/~ryousuit/>